

鈴蘭 第1号

発行者 青木 伸弘
 編集 「鈴蘭」編集委員会
 〒763-8507
 香川県丸亀市津森町219番地
 TEL (0877) 23-5555
 FAX (0877) 23-6200
<http://www.jyujin-asadahp.jp>
 題字 青木 伸弘



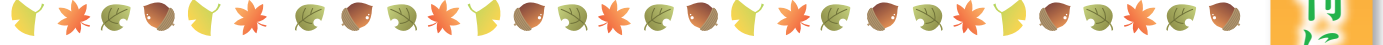
広報誌「鈴蘭」発刊によせて

医療法人社団重仁

理事長 青木 伸弘



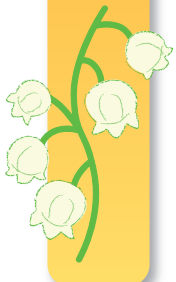
前法人の広報誌であった「いきいき」の第1号の発行が平成17年7月、昨年の10月の32号で途切れました。理由は皆さんが十分ご存知だと思います。年間4回発行で約8年続いたことにより、今年7月に、熱意あるスタッフより広報誌の再発行の申し出があり、当初は時期尚早との思いもありましたが、積極的な申し出に賛同しました。新しい広報誌名は、「鈴蘭」です。一見、何処にでもある有り触れた名前のような気がしますが、白い小さな可憐な花で、フランスでは5月1日に「鈴蘭の日」と称して、友人や家族など愛する人や親しい人に鈴蘭を贈る習慣があるそうで、贈られた人には「幸福」が訪れると云われています。花言葉は「幸福が帰る」「幸福の再来」「意識しない美しさ」「純粹」で、見かけとは違い、有毒成分が含まれていると云い



丸亀の地で70年もの長きに渡って生き残ってきた伝統ある「麻田総合病院」の下で、一生懸命仕事をしてきたスタッフも沢山いると思います。昨年末の行政処分が余りにも突然であった為に、十分な説明がなくスタッフの中には、聞かされてなかったり、信じられない思いや、嫌な思いをした方々がかなりいると思いますが、事実が事実として受け止め、新たな気持ちで再出発に心を入れ替えたスタッフも多いと思います。新たに経営に携わる人間としては、結果としてある意味裏切られた過去を断ち切り、本当の幸福を求めて再度頑張つて欲しいという願いがあります。鈴蘭の持つ花言葉の意味を真摯に受け止め、新たな法人を信じて「真の幸福」になつて欲しいのです。以前にも、皆さんの前で話したり、明細書の手紙にも書いた記憶があるのですが、私がこの病院を経営する目的は、先ず働く皆さんが嘘の無い笑顔で、気持ちよく仕事が出来る環境作りであり、その結果、患者さんにもその気持ち良さが伝染し、この病院に来て「本当に良かった」と喜んで貰える当たり前の空間が創りたくて、この仕事をしているということなんです。良くある病院の理念の中に、地域の為にとか患者さんの為にが、謳い文句の様に掲げられている病院がありますが、それは最終



目的であつて、スタッフが幸福を感じられない病院だとしたら、そんな謳い文句は「まやかし」だと思えますし、医療事故が絶えない筈です。新しい法人で、真の幸福を掴んでください！この10年前後の間に厚生行政は様変わりをしています。なぜなら少子高齢化が音を立てて怒涛のように押し寄せ来ているからであり、医療や福祉は生産性が無いのに銭が掛かるからです。そして、国民皆保険であり続ける限り、厚生行政に逆らつて医療機関は絶対生き残れないということを様々な経験から感じています。決して国や自治体の「御上」と称される役所や役人は好きではありませんが、うまく立ち振る舞うしかないと思つており、そのことがスタッフの幸福に繋がるなら、何も恐れるものは無いとの覚悟です。今の様な殺風景なデジタルの時代だからこそ、人間相手の素晴らしい仕事をしていく皆さんにとって、本当のホスピタリティ（思いやり、心からのおもてなしの意）の籠つたアナログ対応をすることに大きな価値があると信じています。そして、各部署のスタッフ同士のコミュニケーションの綿密さや連携の良さを見ることが患者さんにとって、最も信頼できる構図ではないかと思つており、そんな光景が自然に院内のあちこちで見られるような病院創りを目指しており、そしてスタッフの皆さんに「真の幸福」を掴んで欲しい、そんな願いで当院の広報誌「鈴蘭」を大切に育てて欲しいと思えます。



病院の発足に当たって



医療法人社団「重仁」麻田総合病院 病院長 香川 勇

ご承知のように『社会医療法人財団「エム・アイ・ユー」麻田総合病院』は、診療報酬の請求に際して看護師配置に不備があったため、平成26年4月1日より5年間にわたり「保険医療機関の取り消し処分」という行政処分を受けました。このことを深く反省するとともに、ご迷惑をかけた皆様にお詫びを申し上げる次第です。この行政処分により病院運営に重大な影響が及び、患者さんを始め、病院職員や関係者の皆様に多大のご迷惑をかけることが予想されました。この窮地に、富山県にある『医療法人社団「重仁」』の方達が間に入り、病院存続のためにご尽力下さったのです。事業譲渡という形で、『社会医療法人財団「エム・アイ・ユー」』の負の財産も含めて、事業内容の殆どすべてを受け入れて対応して頂きました。一口に事業譲渡といっても、大変なリスクを伴うものであり、短期間のうちにこれを実行して頂いた関係者のご英断に深く感謝を致しております。

麻田総合病院は、昭和19年開院以来今年で70年の歴史になりましたが、これまで地域の皆様から温かいご支援を頂いて、大過なく地域医療に邁進して参りました。今回、『医療法人社団「重仁」麻田総合病院』として業務を引き継いでいただいたことは、地域の方の病院への愛着を深めて頂くと共に、病院職員のモチベーションを高める大きな力となりました。このご厚意に報いるため、職員一同一丸となって病院再建のため尽力して参ります。新しい病院が発足して既に半年になりました。いろいろな問題が山積していますが、一歩一歩着実に前進していることは、日々の診療を通じて窺い知ることが出来ます。今回の処分を受けた一因として、それぞれの職員が「自分の仕事を再チェックする」ことを疎かにしていたことが上げられます。言われたことをそのままするだけでなく「なぜそうしているのか。早く正確に行う方法はないのか。」と常に問いただすことが必要です。青木理事長をはじめとする新しい指導体制のもとで、今回の行政処分の意味するところを深く受け止め、規則を遵守して地域医療の発展のために貢献して行きたいと思っております。今後とも宜しくご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

医療と在宅のかけはし 訪問看護ステーション



団塊の世代が75才を迎える2025年に向かって社会保障制度の改革を急ピッチで国は行おうとしています。

その中で医療提供の体制の再編



が迫られています。2014年度の診療報酬の改定で急性期とそれ以外を分けるといふ狙いが表れています。その中のひとつに在宅への復帰といった流れを強化しようとする動きがみられます。

で地域のなかにおける病院のあり方は医療、在宅介護を一体的にシームレスに提供することだと思えます。今回訪問看護ステーションを立ち上げ、急性期医療が終わり在宅へ復帰された方々が安心できるようなシステムを構築し、療養できるようにしたいと思います。

「山の会」が出来たのは、2007年5月でした。「だいせん」が最初でした。苦労して頂上に着くと、なんと車で頂上まで来れた人たちとバツタリ。しかも病院の患者さんたちでした。汗をかきながら、ある人のおしりを後ろから押して上がったのに。でも何故か満足感でいっぱいでした。それからは、竜王山、剣山、梶が森、亀が森、蒜山など数えきれないほど・・・ここ2年間ほどは休眠ですが、また、目が覚めるのは時間の問題です。私たちは登山というより、きれいな景色を見たり、頂上で「天ぷら・トック・団子・カレー」などの料理をつくらったり、目とお腹と健脚をそして心を満足させるのが目的です。ハイキングに毛が生えた程度ですので、お気軽に参加してください。扉は満開です。

(樋口)



連携室だよね

Y 麻田総合病院に新しく地域医療連携室が開設されました。



地域医療連携室 室長
村嶋 誠 副院長

平成26年8月1日、地域医療連携室を開設いたしました。専門的医療はもとより総合的医療も求められる地域医療では、機能分担は不可欠であり、自分たちに求められるものは何か、自分たちにできることは何かを常に考えることが大切だと考えています。

医療機関の先生方だけでなく、介護・福祉関連機関や行政機関の方々とも緊密な連携をさせていただけるような連携室にしていきたいと思えます。

地域の皆様に安心と信頼が得られる医療の一端が担えるように、地域医療連携室のメンバー一同、日々取り組んで参りますのでご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

スタッフ紹介

地域医療連携室は、副院長を連携室長とし、看護師1名、医療ソーシャルワーカー4名、事務員4名の計10名のスタッフで業務に携わっています。

地域の医療機関や施設からの紹介患者様の診察・検査予約をはじめとし、医療ソーシャルワーカーによる入院・転院相談、地域の医療機関や施設、在宅サービス事業所、福祉行政などとの連携業務、患者様・ご家族様からの相談対応などを行っています。



また、旧予約センターの業務も引き継ぎ、病院内における検査・診察・健康診断の予約や諸検査の説明、患者様ご本人からの診察予約の受付、健診後2次精査の問い合わせに対するご案内も行っています。

地域医療連携室では、患者様や地域の医療機関の先生方と病院との架け橋となり、安心して患者様やご家族が喜らせる支援を目指しています。

8月より開設された新しい部署ですが、チームワークの良さはなかなかのもので、足りないところを補い合い、日々楽しく笑顔で業務に励んでいます。「困った時は連携室!!」と思ってもらえよう、スタッフ一同努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。



地域医療連携室のご案内

TEL受付時間

8:30~17:30 (月・火・水・金・土)
8:30~12:30 (木)

窓口対応時間

午前9:00~12:00 午後14:00~17:00
(月・火・水・金・土)
午前9:00~12:00 (木)

お問い合わせ先

0877-23-5850 (直通)



本館入り口を入るとすぐ正面が地域医療連携窓口です。

地域医療連携窓口は、総合案内も兼ねています。毎日笑顔でお待ちしておりますので、困ったことがありましたら、気軽にお声をお掛けください。



健康管理センター

医学が進歩し治療技術が向上しても、病気の予防・早期発見・早期治療にまさる医療はありません。

健康を守るといふ予防医学としての任務を、あらゆる健康診断・人間ドックを通して果たしていきたいと私たちは考えています。

みなさまの健康管理にお役に立てれば幸いです。

当院の特徴



● 事前予約によりあらかじめ受付日時を決め、健康診断専用のフロアーで待ち時間少なくお受けいただけます。

所要時間

人間ドック基本項目で1時間30分程度で、それに乳子宮頸がん検診などを追加された場合でもプラス40分ほどで終わります。

● 検査機器から直接ICカードを通してデータ収集をします。

● 万一、健診で何か所見があった場合、速やかに外来受診していただける体制を整えています。また、ご自身の希望に沿った健診後のフォローをいたします。



受付風景



検査室



乳房X線撮影装置



婦人科



胃部X線装置



診察室

お受けいただける健康診断・人間ドック (ほとんどすべての健診を実施できます!)

各自治体による各種検診

(後期高齢者健康診査・特定健康診査・胃がん検診・大腸がん検診・乳がん検診・子宮頸がん検診・肝炎検査・前立腺がん検診及び人間ドックなど)

職場の定期健康診断を含む生活習慣病予防健診及び人間ドックなど

日帰りドック、宿泊型人間ドック

※豊富なオプションの中からお選びいただき、ご自身にあった人間ドック・健康診断にできます。

何かございましたらお気軽にお問い合わせください。 直通電話 0877-24-8300



冬季の食中毒に 注意しましょう



食中毒というと梅雨時や夏のものと思う方も多いかもしれませんが、実はこれからの時期にも注意が必要です。特に11月に入るとウイルスによる食中毒が増えます。今回はそのなかでも原因ウイルスNo.1である「ノロウイルス」の特徴や感染時の症状、予防方法を紹介します。

ノロウイルスの特徴

ヒトの腸内のみでしか増殖できない一方で強い感染力を持つ。極めて微量(100個以下)で感染し、健康被害をもたらす。

感染経路

- **食品からの感染**
 - ・ ウイルスの蓄積した、加熱不十分な二枚貝(カキやハマグリなど)などの摂取
 - ・ 感染した人が調理などをして汚染された食品

人からの感染

感染した人の糞便や嘔吐物からの二次感染など

症状

潜伏期間(*1)は24~48時間。主症状は吐気、嘔吐、下痢、腹痛で発熱は軽度。感染しても症状のない場合や軽い風邪のようなこともある。感染後、通常1週間~1か月糞便中にウイルスが排出される。感染者がそれを知らずにいると、自分自身が周囲の人々の感染源になってしまうことも…。

*1 潜伏期間：ウイルスが体内に入ってから症状がでてくるまでの期間

予防のポイント

三原則は「つけない」「増やさない」「やっつける」

● 外出先からの帰宅時や食事前、トイレの後などには、必ず手を洗う

石鹸を十分に泡立て、ブラシなどを使用して手指を洗浄する。すすぎは温水による流水でしっかりと行い、清潔なタオルやペーパータオルで拭く。

石鹸自体にはノロウイルスを直接失活化(*2)させる効果はないが、手の脂肪などの汚れを落とすことにより、ウイルスを手指からはがれやすくする効果がある。

● 食品の加熱をしっかりと行う

一般にウイルスは熱に弱く、加熱処理はウイルスの失活化に有効。ノロウイルスの汚染のある二枚貝などの食品の場合は、中心部が85~90℃で90秒以上の加熱が望まれる。

● 調理台や器具を清潔に保つ

アルコール消毒は効かず、次亜塩素酸ナトリウムなどの塩素系漂白剤(*3)が有効。調理器具は洗剤で十分に洗浄した後、市販の塩素系漂白剤(約200倍に薄めたもの)で浸すように拭くことでウイルスを失活化できる。まな板や包丁、ふきんなどは煮沸消毒(85℃で1分以上)も効果的。

*2 失活化：ウイルスの活性を失わせること

*3 塩素系漂白剤を使用の際は「使用上の注意」を確認すること

ノロウイルスについてはワクチンがなく、治療は輸液などの対症療法に限られます。従って、まわりの方々も一緒に、予防対策を徹底しましょう！

管理栄養士

理学療法室リニューアル

理学療法室の床に体重がかかる沈む部分が数か所あり、患者様方には長い期間、ご迷惑をおかけしておりました。この度床面と壁の修繕を行って頂きまして、東館5階・理学療法室が装いも新たに生まれ変わりました。

工事は理学療法室の床全体に及び、工事期間中、仮の訓練室として7階ホールを提供頂く事になりました。先ず全ての器具を運び出し、7階に設置し、工事が終われば又5階に設置し直すという大掛かりな引っ越しとなりました。幸い当科は職業柄？腕力・体力には自信があるスタッフが多いのですが、大きな器具の運搬となると素人です。



Before



After



が綺麗になったのだから」と急遽、施設課の皆さんが1日ばかりで、修繕から塗装までを仕上げて下さり、見違えるように訓練室全体が明るく、気持ちの良い空間に生まれ変わりました。合わせて器具の配置もこの機会にと変更し、かなりのイメージチェンジが図られたと思っています。工事期間中、職人さんの仕事を拝見出来たのも貴重でした。工事中の騒音、訓練室の変更と患者様はじめ、関係部署の皆様にはご迷惑をおかけ致しましたが、本当にご協力有り難うございました。

Beforeをご存知の方もそうでない方もAfterを覗き是非一度理学療法室を尋ねて下さればと思います。

理学療法士

再自動受付機が設置されます

再診を受ける患者様が診察券を挿入して希望の診療科などを選択、または予約内容の確認を行うと、受付票が自動発行される再自動受付システムの採用が決定しました。大画面のタッチパネル液晶モニターに、操作手順を示すアニメーション、文字の表示も大きく高齢者の方も簡単に使用できる見やすさ、わかりやすさを追求したシステムです。ご不明な点がございましたら、お気軽に職員までお尋ねください。



師長に聞く



東3-2階(東2階)師長 堀江悦子

東3-1・2階病棟の2階を担当させていただいております。東2階、東3階ともに外科病棟ですが、東2階は女性の患者様が多く入院されています。異動になって間もないため、スタッフだけでなく、患者様にも教えていただくことが多々ある毎日です。ただ、手術前後の患者様や癌の疼痛緩和治療をされている患者様などは精神的な看護も必要とされます。



高齢の方も多く、内科的疾患が基礎疾患にあり内科的な知識も必要とされます。また、東3階もフロアは違って同じ外科病棟で、設備の違いから病室移動をする際にも階を異動するようになりますが、患者様にご迷惑をおかけすることのないよう努力しております。

今後東3階の岩本師長とも相談しながら、患者様がよりよい療養生活を送れるようスタッフとも日々研鑽を積んでいきたいと思っております。ご意見等ございましたらお気軽に声をかけて頂ければ幸いです。

健康祭りが開催されました

「台風が来るかもしれない、え〜困ったね」、そんな会話が交わされて心配していましたが、見事に晴れわたり絶好の健康まつり日よりになりました。「重仁」としては初めての取組になりました。健康測定をする人、健康相談を医師にする人、栄養相談などに多くの方が来られ、スタッフ同懸念の対応をさせてもらいました。病院の外では、尺誠太鼓のみなさんがまつりのオープニングを盛り上げてくれて、たくさんの方が熱心に太鼓演奏に聞き入っていました。



梶市長とともに



尽誠学園太鼓演奏



健康測定コーナー

またフリーマーケットでは時間前から行列ができる程で、模擬店同様早々と売り切れになりました。途中で梶丸亀市長も激励に来られ、参加者スタッフに声をかけていました。これらの方から「こんな取り組みやったら、毎年やってほしい」と言われ、続けなければと思っているところです。

新人紹介



看護師 落合 瞳さん

3月より整形外科病棟で勤務しています。看護師の落合瞳です。多くの患者様やその家族と出会い、先輩看護師の御指導のもと早5か月が経過しようとしています。整形外科が対象とする運動器の障害は、患者様の日常生活に制限をもたらせるだけでなく、患者様本人や家族の生活の質(QOL)をもおびやかします。求められる医療は、患者様の年齢・仕事・家族などの生活状況により異なります。

どのような医療を受けるかによって、その後の患者様や家族の人生が変わってきます。常に最新の知識や技術を学ぶ必要があると考えています。未熟者であり、皆様にはご迷惑をおかけするかと思います。が、御指導の程宜しくお願い致します。

編集後記

中国の古いことわざで「人間万事塞翁が馬」というのがあります。人生における不幸は予測しがたい、幸が不幸に、不幸が幸にいつ転じるかわからないのだから、安易に喜んだり悲しんだりするべきでないというたとえです。人生、家族、仕事、金銭などにおいて「塞翁が馬」だということです。しかし、自分の努力なしでただ待つだけでは、良くはなりません。不幸の時、それがどんなに大きな問題であってもあきらめないことです。100メートルの高い障壁でも、因数分解すれば1メートルが100個なのです。1メートルの障壁ならば解決できます。このような「ポジティブ」な考え方が基礎にあつて、はじめて「人間万事塞翁が馬」ではないでしょうか。当院がこれから歩む道は障壁が高いときや低いときなど数多く出てくるでしょう。そのとき、「ネガティブ」でなく、いつも「ポジティブ」な姿勢で立ち向かっています。道は切り開けるのではないのでしょうか。

加藤 繁秋

私たちと一緒に働きませんか

病棟編成に伴い、看護職員を募集しております。詳細はお気軽にお問い合わせください。

